

てらこや えどじだい きょういく
寺子屋と江戸時代の教育

—稲城市域の寺子屋・私塾・学問所—

稲城市東長沼2111
☎042-378-2111
発行 2008. 3. 5



寺子屋などで使われた机

明治5年(1872)の^{がくせい}学制の発布によって、国家の一元的な管理のもと小学校が設立され、近代的な教育制度が始まりました。しかし地域の村々での教育活動は、それ以前の江戸時代から始まっていました。稲城市域の村々では、江戸時代後期から明治時代初期にかけて、寺子屋・^{てらこや}私塾・^{しじゅく}学問所での教育が盛んにおこなわれていました。

江戸時代の教育機関として最も盛んだったのが、寺院で開設された寺子屋でした。寺子屋では農村の子どもたちを集めて教育を行い、村の教育機関を担っていました。江戸時代の稲城市域は、長沼村・矢野口村・大丸村・百村・坂浜村・平尾村の六か村に分かれていました。寺子屋が開設されたことがわかっているのは、長沼村の常楽寺、坂浜村の宝蔵院などで、そのほかの村々でも開設されていたと思われます。寺子屋では、読み書きなどを基本とした初等教育が行われました。宝蔵院や常楽寺の寺子屋は、やがて明治時代になると小学校の教場として使用され、村の教育機関として存続することになります。

寺子屋のほかにも、村の指導者や教育者が私塾や学問所・習字所などを開いていました。ここでは和^わ算・^{しゆざん}珠算(そろばん)・書道などが教えられ、多くの子どもたちが指導を受けていました。また、村の教育者たちの状況は、市内の神社・寺院の境内にたてられた「^{ふでづか}筆塚」とよばれる石碑によっても見ることができます。筆塚は、幕末期に私塾の指導者の功績をたたえて建てられた石碑で、教育の記念碑といえるものです。

矢野口の穴澤天神社の筆塚は、文久3年(1863)に建立されたもので、原田金陵という指導者の功績をたたえて、矢野口村・長沼村・押立村・五反田村の門弟164名によって建てられました。現在の川崎市多

摩区菅の福泉寺（今は廃寺）で塾を開き、矢野口村でも教えていたと伝えられます。矢野口の妙覚寺の筆塚は、嘉永7年（1854）に建立されたもので、角田すず女という指導者の功績と徳をたたえて、矢野口村・長沼村・押立村・菅村の49名の筆子代表者によって建てられました。百村の妙見尊の筆塚は、文政6年（1823）に建立されたもので、百村出身の書家百瀬雲元が還暦をむかえた記念に、多くの門人たちの協力によって建てられました。百瀬雲元は江戸にでて塾を開き、多くの門人を育てたといわれますが、晩年は隠居して故郷の百村に移り住みました。いずれの筆塚も、私塾の指導者の功績をたたえて建てられたもので、地域の村々における指導者たちの功績や指導範囲の広さなどを知ることができます。村々の範囲を越えて広範囲に教育活動が行われたことがわかります。

このような寺子屋・私塾・学問所などの活動は、やがて明治時代になって小学校が設立され、近代の教育制度へとつながっていくための原動力となりました。（参考文献、『稲城市史上巻・下巻』）



寺子屋の様子



妙覚寺の筆塚



穴澤天神社の筆塚

幕末から明治初期の寺子屋・私塾・学問所

村名	指導者	指導内容等
坂浜村	榎本 与五兵衛	幕末期に坂浜村で私塾を開き、珠算、算術を教えた。
	石川 宗七	幕末期に坂浜村で私塾を開いた。
	加藤 重蔵 生：天保8年(1837) 没：大正6年(1917)	坂浜村出身。菅村の寿福寺で学び、幕末期に坂浜村の宝藏院で寺子屋を開設した。明治に入り、立志学校の訓導となる。
矢野口村	嘉山 八郎	幕末期に矢野口村で習字所を開設した。（安政4年開設といわれる）。明治に入って、潤身学舎、矢野口学校の訓導となる。
	角田 すず女	角田すず女は筆学の指導者で、矢野口村・長沼村・押立村・菅村の門弟49名により、嘉永7年（1854）に矢野口村の妙覚寺に筆塚が建立される。
	小俣 勇造 生：天保11年(1840) 没：大正3年(1914)	小俣勇造は幕末期より矢野口村で算術を学んでいた。明治10年（1877）に東京に遊学し和算を学び、この時期より矢野口村で和算の指導を始める。
大丸村	高野 五右衛門	材木屋であったが、幕末頃に私塾を開設して和算を教えた。
	吉谷 寔宗 なだむね	幕末期の慶応2年（1866）に私塾を開設し指導した。明治に入って、大円学舎、大円学校の訓導となる。
平尾村	石井 条助	幕末期に、私塾・学問所を開設して指導にあたる。
	石井 良之助 生：嘉永4年(1851)	小俣勇造の弟子で幕末期に和算を学んだ。明治6年から33年まで坂浜村の立志小学校（宝藏院）で訓導として活躍する。石井条助の長男。
長沼村	常楽寺全海和尚	長沼村の常楽寺で、指導する。
	窪 全亮 生：弘化4年(1847) 没：大正2年(1913)	窪全亮は安政4年（1857）に常楽寺の弟子となり教えを受ける。万延元年（1860）江戸東叡学寮に入り、漢詩人大沼枕山などに師事した。明治に入って、長沼郷学校の教師、博文学舎、博文学校の訓導となる。明治13年に奚疑塾を開設して漢学等の指導を始める。広く三多摩地域から入塾者が集まった。
百村	百瀬 雲元 （百村富之進） 生：宝暦13年(1763)	百村出身の百瀬雲元は文人・書家であり、百瀬耕元に師事して、江戸で書道を教えた。文政6年（1823）に門人50名余りにより百村・妙見尊に筆塚が建立される。門人のほとんどは江戸の人々であった。天保2年（1831）百村に戻り隠居した。
菅村 （現川崎市）	原田 金陵 （天真堂）	書道家の原田金陵は、菅村の福泉寺で手習塾を開いた。矢野口村でも教えたといわれる。文久3年（1863）に、矢野口村・長沼村・押立村・五反田村の門弟164名により、穴澤天神社に筆塚が建立される。

参考文献：『稲城市上下巻』、『稲城の教育 100年のあゆみ』、『多摩の算額』、『窪全亮先生と奚疑塾』